

## ◇ 豪州 Q コール社の存在感が俄かに高まる ＝バイヤウエン・プロジェクトの推進決定で

豪州の独立系石炭会社であるQコール社(QCoal Pty Ltd)の存在感がここへきて、俄かに高まってきた。

Qコール社がQld州の大規模原料炭プロジェクトであるバイヤウエン(Byerwen)プロジェクトを早期に推進することを決定したため、同プロジェクトが実現すればQコール社の原料炭輸出量は飛躍的に増大する。

バイヤウエン・プロジェクトは、Qld州ボーエン・ベースン地区の未開発露天掘り鉱区であるバイヤウエン鉱区を開発し、同鉱区で生産した強粘結炭をアボット・ポイント・コール・ターミナル(Abbott Point Coal Terminal:APCT)から日本を始めとするアジア地域などに輸出しようというもの。バイヤウエン鉱区での石炭生産開始時期は2012年で、フル・スケール段階で1千万トン/年の原料炭が生産される。

既報のようにバイヤウエン・プロジェクトにはJFEスチールが参画する。JFEスチールは同プロジェクトの権益を20%取得し、バイヤウエン鉱区で生産される高品位強粘結炭を2012年度以降、10年にわたって200万トン/年引き取る。JFEスチールは権益買収費を含め、同プロジェクトに約500億円投資する。

Qコール社は現時点においては、Qld州の単なる中小石炭サプライヤーにすぎない。事実、Qコール社が権益を保有する既存炭鉱はQld州ソノマ炭鉱(Sonoma)だけであり、同炭鉱の2009暦年における石炭販売量も310万トン内外(一般炭が約70%、原料炭が約30%)にとどまっている。ちなみにQコール社は同炭鉱の権益を45%保有している。従って権益保有分の石炭販売量は140万トンにも満たない。

しかし1千万トン/年の原料炭生産が見込まれるバイヤウエン・プロジェクトが立ち上がれば、Qコール社は一躍、豪州でも指折りの強粘結炭サプライヤーに躍り出る。

バイヤウエン・プロジェクトの特長は①BMA(BHP Billiton Mitsubishi Alliance)のピーク・ダウンズ炭やサラジ炭、グーニエラ炭並み高品位強粘結炭が生産される②大規模な露天掘り方式によって、操業コストを低減できる③豪州で唯一出荷能力に余裕があるAPCTから石炭を輸出できる……ことなどであり、これらの特長を備えた原料炭プロジェクトは、世界最大の原料炭輸出地域であるQld州でも稀である。

加えてバイヤウエン・プロジェクトを推進するのが、独立系石炭会社であるQコール社であることも大きい。周知のように世界の原料炭輸出産業はBMAやカナダのテック・リソースズ社(Teck Resources Limited)などによって寡占化されているが、Qコール社が台頭すれば、原料炭輸出産業の寡占化も少しは緩んでこよう。

しかもQコール社は非上場企業であることから当面、外資系の大手鉱山会社によってTOB(株式公開買い付け)を仕掛けられる心配もない。

このため原料炭需給の逼迫が慢性化してきている中、原料炭の長期安定調達を迫られている各国の大口原料炭需要家はバイヤウエン・プロジェクトに高い関心を示しているようだ。従って今後、JFEスチールに追随して、同プロジェクトに参画しようとする需要家が出てくることも十分考えられる。

既報のようにバイヤウエン・プロジェクトではフル・スケール段階で1千万トン/年の原料炭が生産される。うち200万トン/年は長契でJFEスチールに出荷されることが決まっており、今後は残りの800万トン/年を巡って争奪戦が繰り広げられるであろう。(宮元)